

膽石例數ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38615

○膽石例數ニ就テ

特別會員 村上庄太述

(澤金)

時ノ古今ヲ論セズ洋ノ東西ヲ問ハズ凡ソ各地ニ於ケル疾病例數ノ統計ヲ比較スルキハ、何病ハ彼ノ國ニ多クシテ某病ハ此地ニ少ナシト云フガ如キ自然ノ差アル可キハ數ノ免カレザル所ナリ、聞説ク膽石病ハ歐羅巴各地ニハ極メテ多クシテ、我日本國ニハ其數甚ダ少ナシト、果シテ然ルヤ否ヤ、少シク疑ナキ能ハズ、今之ニ關スル一二ノ報告ヲ閱スルニ、

Zammya 氏ノ「膽石ニ就テ」ノ報告中ニ曰ク、膽石例ハ甚ダ屢々アルモノニシテ大人屍數ノ大約十分ノ一ヲ占ムト、又 Bollinger 氏ノ「膽石病ニ就テ」ノ報告ニ「ミンヘン」、「ドレスデン」、「バーゼル」及「ストラーヌブルグ」等ノ地方ニ於ケル病理解剖上ノ比較ハ、中央歐洲ニ於テ平均解屍數ノ凡ソ七「プロセント」許ノ膽石例數ヲ有スト云フ、尙ホ「ドレスデン」ノ市立病院ニ於ケル其比例ヲ見ルニ、千八百五十三年ヨリ千八百六十九年ニ至ル十七年間ノ解屍總數四千三百餘ノ中膽石例ハ二百七十回アリ、其他 Eichhorst 氏ハ千八百八十四年ヨリ千八百九十三年ニ至ル十年間ニ於ケル、同氏ノ「クリニク」ヨリ出デタル死骸總數千七百〇一ノ解剖ニ於テ百二十七回ハ膽石ヲ發見セリト云フ、是レ亦大約七「プロセント」ニ相當ス、

斯ノ如ク歐洲ニ於ケル膽石例數ハ解屍數ノ凡ソ七乃至十「プロセント」ニシテ而カモ多數ナリト云ヘリ、而シテ我日本國ニ於ケル其例數ハ如何、之ヲ先輩ノ觀察或ハ報告ニ就テ見ルニ實ニ稀有

ニ屬スルモノ、如シ、尤モ *Bohn* 氏ハ日本ニ於テハ膽石病ハ比較的稀ナルモ近年ニ至リ増加ノ傾アルモノ、如シト云ヘリ、但シ氏ノ觀察ハ恐ク臨床上ノ所見ニ基キタルモノニシテ解屍上ヨリ之ヲ証スルモノニアラザルベシ、然レモ己ニ人ノ知ル如ク膽石ハ臨床上ニ之ヲ認メズシテ解屍上偶然ニ發見スルコト徃々之レアルモノナレバ、臨床上ニ於テ稀ナリト云フモ果シテ眞ニ稀ナルモノナルヤ或ハ唯臨床上ニ之ヲ發見セザルニ止マリ其實看過スルコト却テ多キモノナルヤ未ダ其實ナルコトヲ察知スルコト難シ、今岡山病院ニ於ケル麻植巨一氏ノ本病ニ關スル取調報告ヲ見ルニ明治二十七年十一月ヨリ明治三十年四月ニ至ル二年半間ノ患者數一萬一千四百餘人中唯僅カニ一回ノミ本病患者ニ遭遇セリト云フ、以テ本病ノ臨床上如何ニ其稀有ナルカヲ察スルニ足ラン、又同氏ノ岡山醫學專門學校ニ於ケル剖檢記事ノ調査ニハ、明治二十四年以降七年間ニ於ケル解屍總數二百七十六躰ニ就テハ未ダ偶然ノ發見ヲ見ズト云フ、加之ナラズ同氏ガ桂田教授ニ就テ之ヲ質サレタルニ桂田氏モ亦未ダ斯ノ如キ機會ニ遭遇シタルコトナク、唯膽囊内ニ黑色不正形ノ凝塊十三個ヲ含有セルモノ一例ヲ實驗セルノミナリト云ヘリ、之ニ據テ麻植氏ハ次ノ如キ結論ヲ爲セリ、曰ク「本病ハ唯症候的ニ稀有ナルノミナラズ無症候的ニモ亦非常ニ稀ナルモノト云ハザル可カラズ」云々

然ルニ我金澤醫學專門學校ニ於ケル統計ノ結果ハ實ニ左表ノ如クニシテ、右岡山醫學專門學校ノ統計トハ著シク相異ナル所アリ、即チ明治二十八年以降八年間ニ於ケル病理解剖總數ハ二百六十一屍ニシテ、膽石ヲ有スル者十八名アリ、内男八名ニシテ女十名ナリ、此「プロセント」數ハ殆ン

ド七ニ相當ス。

年 齡	膽石例數
二十年代	二 名
三十年代	一 名
四十年代	一 名
五十年代	四 名
六十年代	六 名
七十年代	三 名
八十年代	一 名

但シ右表中六十年代ノ者最多數ニシテ其六名中二名ハ男子ニシテ四名ハ女子ナリ故ニ女子ノミノ六十年代ノモノハ十八名ニ對スルニ二二二二「プロセント」ナリ之ヲ「ボルリソングル」氏ノ報告ニ徵スルニ歐洲ニ於テハ六十年以上ノ女子ニ就テハ二十五乃至三十三「プロセント」ナリト云フ、上記ノ事實ニ據リテ考フレバ本邦殊ニ北陸地方ニ於ケル膽石例數ハ歐洲ニ於ケルガ如ク比較的高老者殊ニ老婦ニ多クシテ又解屍ノ際偶然ハ發見スルコトアルハ決シテ少ナシト云フヲ得ズ故ニ人ノ言フ如ク本邦ニハ膽石病トシテ臨床上ニ之ヲ見ルコトハ或ハ少ナカラシモ解屍上ヨリ觀ルトキハ歐洲ニ於ケルト同ジク其實例多數ナリト云フモ敢テ不可ナカルベシ、

○所謂「胎毒下」ノ弊害

特別會員 岡本京太郎

(澤金)

一般幼兒ニ其健否ヲ問ハズシテ胎毒下シノ目的ニ種々ノ賣藥ヲ與フル弊習アルハ皆人ノ知ル所ナリ醫師ノ言未タ全ク俗耳ニ容レラザルカ今日尙此習慣ノ驚クベキ信用ヲ以テ民間ニ行ハレツツアルハ是非モナシ同朋ノ愛兒即チ未來ノ國民ノ幾多ガ不知不識ノ間之カ爲メニ損害